

金澤鞆製

TEL.03-3891-5964 FAX.03-3806-5880



金澤 守利
代表取締役

代表者：代表取締役 金澤 守利
資本金：—
従業員：2人

創業年：昭和25年
業種：かばんの製造業および販売
事業内容：かばんの企画・開発、
繊維・化従業員：2人 学・皮革製かばん類の
販売・事業サービス

需要に応じた製品企画・販売と製造コーディネータを 両立して業界を牽引する

昭和25年創業、社歴75年のかばん専門メーカー。昭和時代には従業員とともに自社内の縫製工場で、受注生産の製販一貫体制の事業を行ってきた。平成に入り、徐々に業界全体が新興国からの低価格品と欧州からの有名ブランド品に押されて国内製品のシェアを下げるという状況に陥り、また、消費者の趣向が多様化する時代を直視して、市場が求める「個性的でオリジナルな製品を提供する」戦略に方向転換した。

かばん製品の企画・開発を中心に、新たな事業展開を指向する企業などとの営業情報の交換から資材調達、製品づくりまでを融通し合い、連携し、協働化する事業展開に重点を移した。

ニッチ分野の製品づくりの活路を開く

現在は個人経営で、鞆（かばん）の企画・試作開発を自社で行い、製品の量産は外部の協力会社に任せるが、販売も自社で行う企業である。

かばん産業に長年かかわっている存在感は大きく、多くの取引先との関係を大切に、業界団体のリーダーとしてかばん製作に関するプロジェクトや地域の枠を超えたさまざまな連携事業の推進役を果たしているのが当社の特徴でもある。

当社の取扱い製品は、かばんの素材として最も普及しているナイロン系と皮革系が主体。大半が顧客指定のオリジナル製品で、材質、機能、デザインが勝負となるが、蓄積されたデータを駆使して型紙を起こし、自社で製造したサンプル品を迅速に提示し、承認されれば専用ラインを持つ国内の協力工場に委託して製作し、短納期で届ける。

情報交流を密にして多様な顧客ニーズにチャレンジし、新たな製品づくりや事業提携を拡大している。

地域の枠を超えた産学官の連携を推進

MACCプロジェクトに参画してからは、東京都立大学（旧首都大学東京）健康福祉学部と共同で障害者の介護用スリングを実用化した。その他、植草学園大学（千葉県）との災害時の要介護者用移動具の開発も行った。

荒川区内にとどまらず、首都国を中心にした企業と企業、企業と消費者、産・学・官の連携、そしてかばん製作に関わる職人の技能向上、後継者育成に取り組む考えだ。



介護用スリング

後の世代の教育にも熱心で 業界のリーダー的存在



縫製職人である金澤社長は、幅広いネットワークを活かした事業展開が持ち味。文化服装学院や東京モード学院服飾学科などでかばん製造の技術指導を行った経歴の持ち主。荒川区や東京都内の産業・教育との関わりも深い。

また、一般社団法人東京鞆協会の会長、東日本鞆工業組合の監事を務め、毎週日曜日に開催される台東区の革製品製作技術講習会の講師も務めている。

業界に企業間連携や産学官連携を広め、日本鞆ハンドバック協会が実施している資格制度「鞆・ハンドバック・小物技術認定（皮革部門）制度」の普及、革製品の人材教育にも取り組むなど、業界のコーディネータ役を果たし、協働化によるかばん産業の振興に力を注いでいる。